

## 【資料編】

### 横須賀市災害時ボランティアセンター設置・運営マニュアル 資料編一覧

令和元年 9 月

横須賀市災害時ボランティアセンター設置・運営マニュアルの資料編として次の資料を整備する。

資料番号	資料名称	備考
資料 1	災害時における災害時ボランティアセンターの設置等に関する協定	平成 20 年 8 月 6 日締結
資料 2	災害時ボランティアセンター設置等にかかる覚書	令和元年 6 月 14 日締結
資料 3	緊急時連絡先	非公開（関係者のみ開示）
資料 4	関係機関連絡先	非公開（関係者のみ開示）
資料 5	SVC 配置図	
資料 6	SVC 必要物品等一覧	
資料 7	ボランティア活動必要資機材一覧	
資料 8	三浦半島・横須賀市の概況	参考 1 横須賀環境情報図 参考 2 谷戸分布図・谷戸一覧 参考 3 横須賀トンネルマップ
	以下余白	

災害時における災害時ボランティアセンターの設置等に関する協定

(趣旨)

第1条 この協定は、地震その他の大規模災害により、横須賀市内に被害が発生し、又は発生する恐れがある場合において、横須賀市（以下「甲」という。）は社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会（以下「乙」という。）に対し災害時ボランティアセンター（以下「センター」という。）の設置及びボランティアの受け入れ等の協力を要請し、応急対策を円滑に遂行することを目的に必要な事項を定めるものとする。

(協力要請)

第2条 甲は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）及び災害対策本部条例（昭和38年横須賀市条例第33号）の規定により災害対策本部を設置した場合において、災害応急対策実施のためのボランティアの受け入れ及び活動支援が必要と判断したときは、乙に対し、センターの設置を要請するものとする。

(協力の実施)

第3条 乙は、前条の規定による要請を受けたときは、業務上の支障又は止むを得ない理由がある場合以外は、他の業務に優先して協力するものとする。

(センターの開設等)

第4条 乙は、第2条の規定による要請を受け、横須賀市総合福祉会館（以下「総合福祉会館」という。）内にセンターを設置した場合は、センターとして使用する間、その用途に使用する部分について総合福祉会館を管理する。

2 乙は、センターにおいてボランティアを募集し、受け入れたボランティアを災害時における一般ボランティアとして登録し、必要に応じ登録された一般ボランティアの活動を支援することとする。

3 乙は、センターを設置している間、ボランティアの受け入れ等運営状況を随時甲に報告するものとする。

4 センターの活動の終了は、復旧状況等を考慮し甲乙協議の上決定するものとする。

(連絡責任者)

第5条 この協定の実施に関する連絡責任者は、甲においては横須賀市福祉部健康保険課長を、乙においては社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会総務課長をもって充てるものとする。

(経費の負担)

第6条 第3条の規定による協力の実施について、乙が要した経費は、甲が負担するものとする。

2 前項の経費の負担につき疑義が生じたときは、甲乙協議の上負担すべき額を決定する。

(保険)

第7条 乙は、災害時のボランティア活動中の事故に備え、災害発生時のボランティア活動開始の際に、活動参加者をボランティア保険に加入させるものとする。

2 前項の保険の加入にかかる費用については、ボランティアの自己負担とする。

(個人情報の取り扱い)

第8条 乙は、本協定に基づき設置するセンターの運営に際して発生する個人情報の取り扱いについて、社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会個人情報保護規程に基づき、適切に管理するものとする。

(協議)

第9条 この協定の実施に関して疑義が生じた場合及びこの協定に定めのない事項については、甲乙協議の上別に定める。

この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各1通を保有する。

平成20年(2008年)8月6日

甲 横須賀市小川町11番地  
横須賀市長 蒲谷亮一

乙 横須賀市本町2丁目1番地  
社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会  
会長 藤原尉夫

平成30年(2018年)2月13日 一部変更

甲 横須賀市小川町11番地  
横須賀市長 上地克明

乙 横須賀市本町2丁目1番地  
社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会  
会長 鈴木立也

災害時ボランティアセンター設置等にかかる覚書

社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会（以下「甲」）と、横須賀災害ボランティアネットワーク（以下「乙」）は、災害時における災害時ボランティアセンターが開設された場合の協力・支援について、下記のとおり合意した。

- 1 横須賀市は、地震その他の大規模災害により、市内に被害が発生した場合等において、甲に対し災害時ボランティアセンターの設置及びボランティアの受け入れ等の協力を要請できる。その要請に基づき、甲が災害時ボランティアセンターを設置し、乙に協力依頼をした場合、乙は市民ボランティアとして協力する。
- 2 甲から乙への協力・支援要請は、横須賀市社会福祉協議会総務課長から横須賀災害ボランティアネットワーク代表へ行うものとする。
- 3 乙は、災害時ボランティアセンターの活動に際しては、災害時ボランティアセンターのセンター長の指示により行動する。
- 4 活動の内容は、横須賀市災害時ボランティアセンター設置運営マニュアルに基づき活動する。

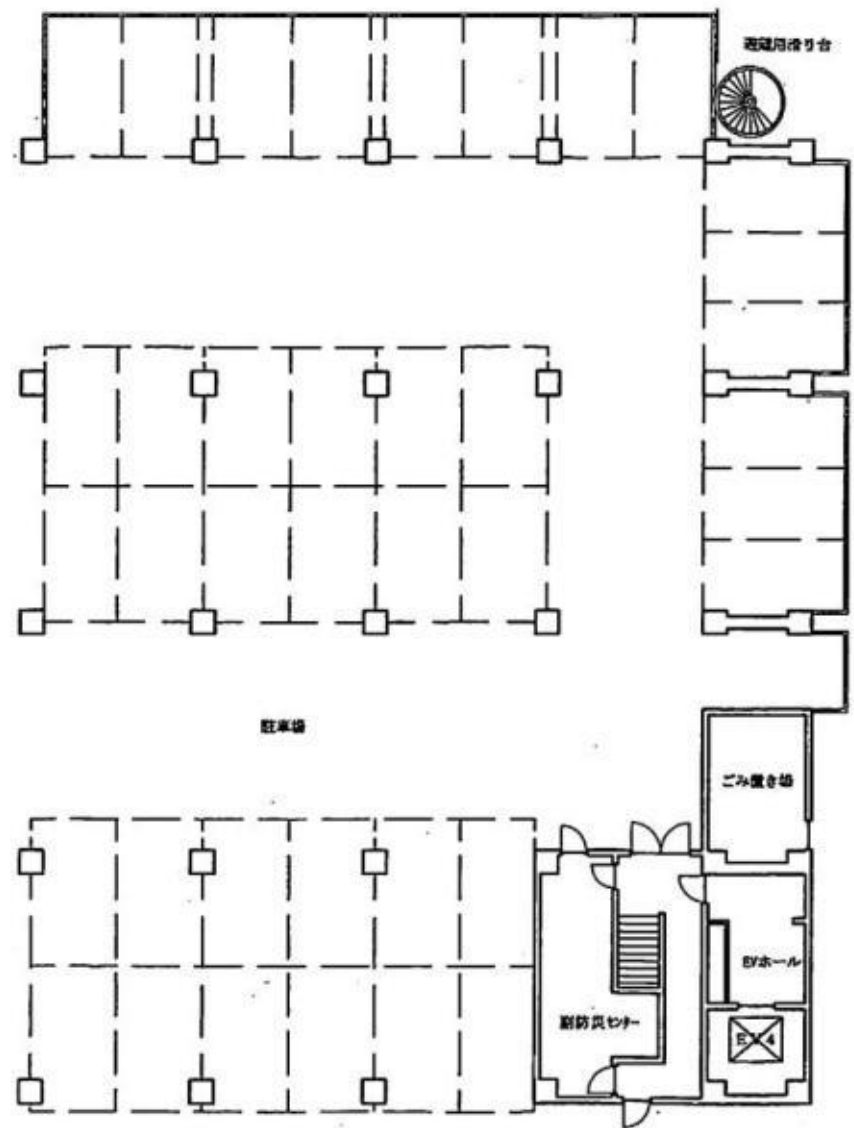
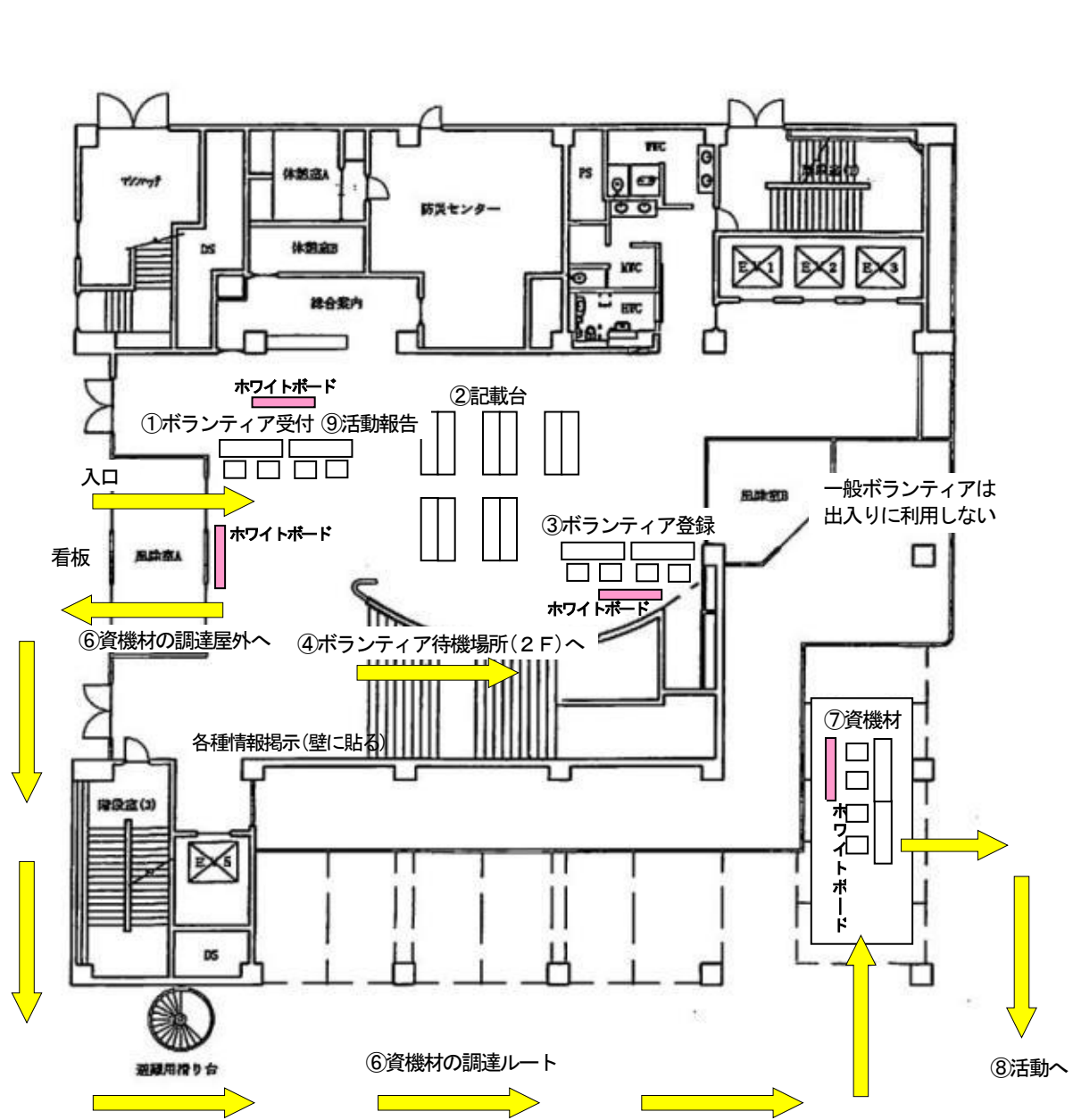
以上合意した証として、本書面を2通作成し、甲乙署名捺印の上、各々1通を所持する。

令和元年（2019年）6月14日

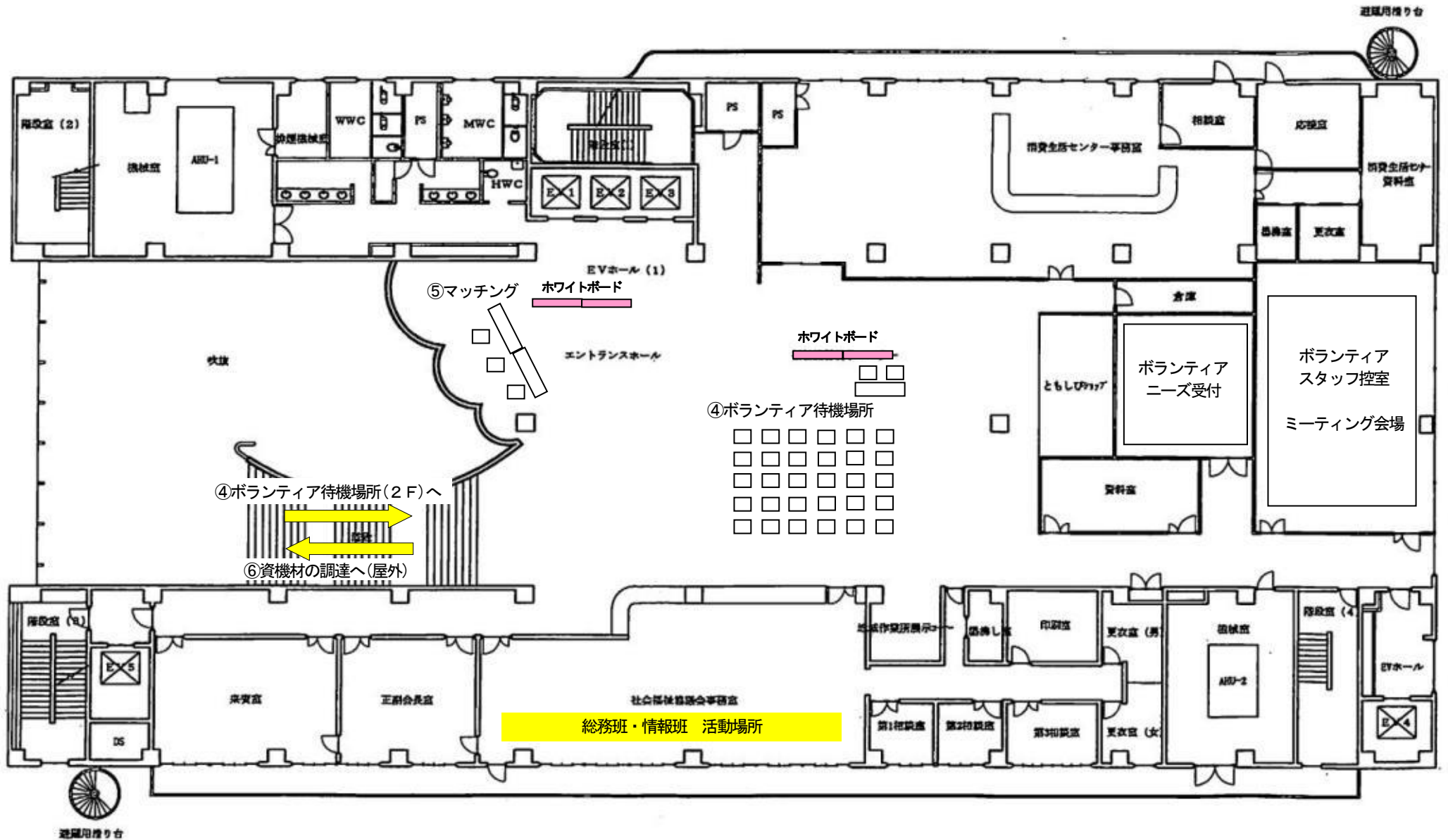
甲 横須賀市本町2丁目1番地  
社会福祉法人横須賀市社会福祉協議会  
会 長 鈴木立也

乙 横須賀市本町2丁目1番地  
よこすかボランティアセンター内  
横須賀災害ボランティアネットワーク  
代 表 岩間道夫

# ボランティア対応班の配置図（1F）



# ボランティア対応班の配置図（2F）



## SVC必要物品等一覧

令和元年9月現在

No	品目	数量	備考
<b>総務班・情報班</b>			
<b>拠点設備</b>			
1	拠点	2カ所	2F社協事務所(事務等) 第2会議室(スタッフ控室・ミーティング等)
2	事務用机	18	市社協職員用机
3	いす	18	市社協職員用いす
4	車輛	2	情報収集・連絡用
<b>通信機器</b>			
5	電話	3	市社協電話番号(3回線) 821-1301/821-1302/824-3435
6	携帯電話(スマートフォン)	3	新たに調達
7	ファックス	1	市社協ファックス回線(1回線)827-0264
8	インターネット回線	35	市社協既存回線を利用(35台まで接続可能)
<b>事務機器</b>			
9	コピー機	1	市社協既存機器
10	印刷機	1	市社協既存機器
11	パソコン	14	市社協職員利用パソコン
12	プリンタ	2	市社協既存機器
<b>その他機器等</b>			
13	ホワイトボード	1	市社協既存物品(スタッフ等情報掲示)
14	金庫	1	市社協既存物品
15	延長コード	数セット	市社協既存物品
16	LANケーブル	数セット	新たに購入
17	テレビ	1	市社協既存物品(情報収集用)
18	ラジオ	1	市社協既存物品(情報収集用)
19	台車	2	市社協既存物品(情報収集用)
20	自転車	1	市社協既存物品(情報連絡用)
<b>消耗品(主なもの)</b>			
21	用紙(A3/A4等)	適量	市社協既存物品
22	マジック等のペン類	適量	市社協既存物品
23	ファイル等	適量	市社協既存物品
24	カッター・はさみ	適量	市社協既存物品
25	その他(ふせん・セロテープ)	適量	市社協既存物品
<b>様式等</b>			
26	運営用の様式類		SVC設置運営マニュアルに記載の様式等
<b>ボランティア対応班</b>			
<b>拠点設備</b>			
27	拠点	4カ所	1Fロビー(ボランティアコーディネート) 2Fいこいのスペース(ボランティアコーディネート) 2F第1会議室(ボランティアコーディネート(ニーズ受付)) 2F第2会議室(スタッフ控室・ミーティング等)
28	長机	27	1Fロビー:16(第2会議室のものを利用) 2Fいこいのスペース:3(第2会議室のものを利用) 2F第1会議室:8(既存のものを利用) 2F第2会議室:13(既存のものを利用)

# SVC必要物品等一覧

令和元年9月現在

No	品目	数量	備考
<b>拠点設備</b>			
29	いす	61	1Fロビー:12(第2会議室のものを利用) 2Fいこいのスペース:33(第2会議室のものを利用) 2F第1会議室:16(既存のものを利用) 2F第2会議室:19(既存のものを利用、不足分はボラセン活動室のものを使用)
<b>通信機器</b>			
30	電話 (総務班・情報班と共用)	3	市社協電話番号(3回線) 821-1301/821-1302/824-3435
31	携帯電話(スマートフォン)	10	新たに調達※ボランティア受付・ニーズ受付に利用
<b>事務機器</b>			
32	コピー機(総務班・情報班と共用)	1	市社協既存機器
33	印刷機(総務班・情報班と共用)	1	市社協既存機器
34	パソコン(Wi-Fiルータあり)	4	ニーズ受付(2台)新たに調達 その他様式等の打ち出し(2台)新たに調達
35	プリンタ(総務班・情報班と共用)	2	市社協既存機器
<b>その他機器等</b>			
36	ホワイトボード	8	1Fロビー:4(ボラセン3個・2F第2会議室1個) 2Fいこいのスペース:4(福祉会館内から調達)
37	ワイヤレスマイク	1セット	来所者への情報連絡等(市社協既存物品)
38	台車	2	市社協(ボラセン)既存物品
<b>消耗品(主なもの)</b>			
39	用紙(A3/A4等)	適量	市社協既存物品
40	色紙(A4 水色)	適量	市社協既存物品
41	マジック等のペン類	適量	市社協既存物品
42	ファイル等	適量	市社協既存物品
43	カッター・はさみ	適量	市社協既存物品
44	セロテープ・ガムテープ等	適量	市社協既存物品
45	模造紙	適量	市社協既存物品
46	ごみ袋	適量	新たに購入
47	ふせん	適量	新たに購入
48	パンチ	数個	市社協既存物品
49	ハンコ	数個	センター長、班長の承認、確認用
50	ゴム印	数個	班名、係名、「避難所提出用」等ゴム印
51	ナンバリング	数個	様式Y322、Y332用
52	日付印	数個	様式Y322、Y322A、Y333用等)
<b>看板・掲示物・案内板</b>			
53	横須賀市災害時ボランティアセンター会場	2ヵ所	立て看板
54	SVC運営方針	適量	模造紙大
55	SVCの一日の流れ	適量	模造紙大
56	SVC組織図	適量	模造紙大
57	ボランティア活動参加者注意事項	適量	拡大版
58	ボランティア活動に行くグループリーダーの方へ	適量	模造紙大
59	こんにちは横須賀市災害時ボランティアセンターです	適量	模造紙大
60	ボランティア誘導案内板	適量	立て看板か掲示
61	資機材置き場案内図	適量	模造紙大
<b>様式等</b>			
62	ボランティア登録証		特殊加工布シール
63	運営用の様式類		SVC設置運営マニュアルに記載の様式等
64	様式記入例、装着例		ボランティア説明用の様式記入例等
65	現地までの案内地図		

この数はあくまで目安として計上。災害の規模や内容により変わる可能性あり



## ボランティア活動必要資機材一覧

注)必要数は別途。

令和元年9月現在

大区分	小区分	No.	物品名	必要数	備考
貸出返却管理	運搬用途	1	台車		
貸出返却管理	運搬用途	2	リヤカー		
貸出返却管理	運搬用途	3	一輪車		
貸出返却管理	運搬用途	4	自転車		
貸出返却管理	補修片付け用途	5	ジョレン		
貸出返却管理	補修片付け用途	6	スコップ		角スコップ、剣スコップ等
貸出返却管理	補修片付け用途	7	ツルハシ		
貸出返却管理	補修片付け用途	8	プライヤー		
貸出返却管理	補修片付け用途	9	トンク		
貸出返却管理	補修片付け用途	10	ナタ		
貸出返却管理	補修片付け用途	11	鎌		
貸出返却管理	補修片付け用途	12	バール		バール、釘抜き等
貸出返却管理	補修片付け用途	13	ノコギリ		
貸出返却管理	補修片付け用途	14	ハサミ類		刈込鋏、剪定鋏等
貸出返却管理	補修片付け用途	15	斧		
貸出返却管理	補修片付け用途	16	ハンマー		大きさ大中小
貸出返却管理	補修片付け用途	17	カナヅチ		
貸出返却管理	補修片付け用途	18	ハシゴ		
貸出返却管理	補修片付け用途	19	脚立		
貸出返却管理	補修片付け用途	20	ロープ		麻ロープ、金剛打ちロープ、ナイロンロープ等
貸出返却管理	補修片付け用途	21	ドライバーセット		ドライバー、ペンチ、
貸出返却管理	補修片付け用途	22	ホース		
貸出返却管理	清掃用具	23	塵とり		
貸出返却管理	清掃用具	24	タワシ類		タワシ、棒タワシ、刷毛等
貸出返却管理	清掃用具	25	バケツ、ポリタンク		
貸出返却管理	清掃用具	26	ホウキ類		ホウキ、竹ホウキ、熊手等
貸出返却管理	清掃用具	27	シート		ブルーシート、テントシート等
消耗品		28	簡易マスク類		使い捨てマスク等
消耗品		29	紐類		ビニル紐、荷造り紐、麻紐等
消耗品		30	ガムテープ類		ガムテープ、ビニルテープ、荷造りテープ等
消耗品		31	手袋類		軍手、ビニル手袋、綿手袋等
消耗品		32	ゴミ袋類		ビニル袋、ゴミ袋等
消耗品		33	土嚢袋		
消耗品		34	雑巾、タオル類		雑巾、タオル、手ぬぐい等



## 三浦半島・横須賀市の概況

改訂.1 2019年9月

## はじめに

本資料は、非被災地から本市に救援支援のために来てくださる方（非被災地の社会福祉協議会、災害救援団体、個人ボランティア）等、三浦半島・横須賀の地域特性を把握されていない方への情報案内としてまとめたものです。新たな調査がなく情報に若干古いものもありますが、大きな傾向の変化はありません。

以下、横須賀市の概況について、

## 1. 横須賀市の概況

- (1) 位置及び面積
- (2) 気候
- (3) 地形等
- (4) 交通
- (5) 人口分布
- (6) 高齢者の現状

## 2. 地域特性

- (1) 谷戸地域
- (2) 横須賀のトンネル

## 3. 三浦半島の活断層

について、概況をまとめています。

災害規模、復旧状況により救援事情は大きく変動しますが、本資料が救援活動に少しでも寄与できれば幸いです。（本資料は不定期に更新します。）

なお、本資料をまとめるに当たり、下記情報を参考とさせていただきました。

- －横須賀市ホームページ掲載の統計情報、市勢統計要図（平成31年度版）
- －よこすか白書2010【横須賀市都市政策研究所 平成23年（2011年）3月】
- －谷戸地域空き家等実態調査報告書【横須賀市都市部都市計画課 平成23年（2011年）6月】
- －横須賀トンネルマップ【横須賀集客促進実行委員会（事務局：横須賀市文化スポーツ観光部観光課）】
- －地震調査研究推進本部ホームページ

また、参考資料の作成主体、作成日により、数値に若干の差異がありますので了承ください。

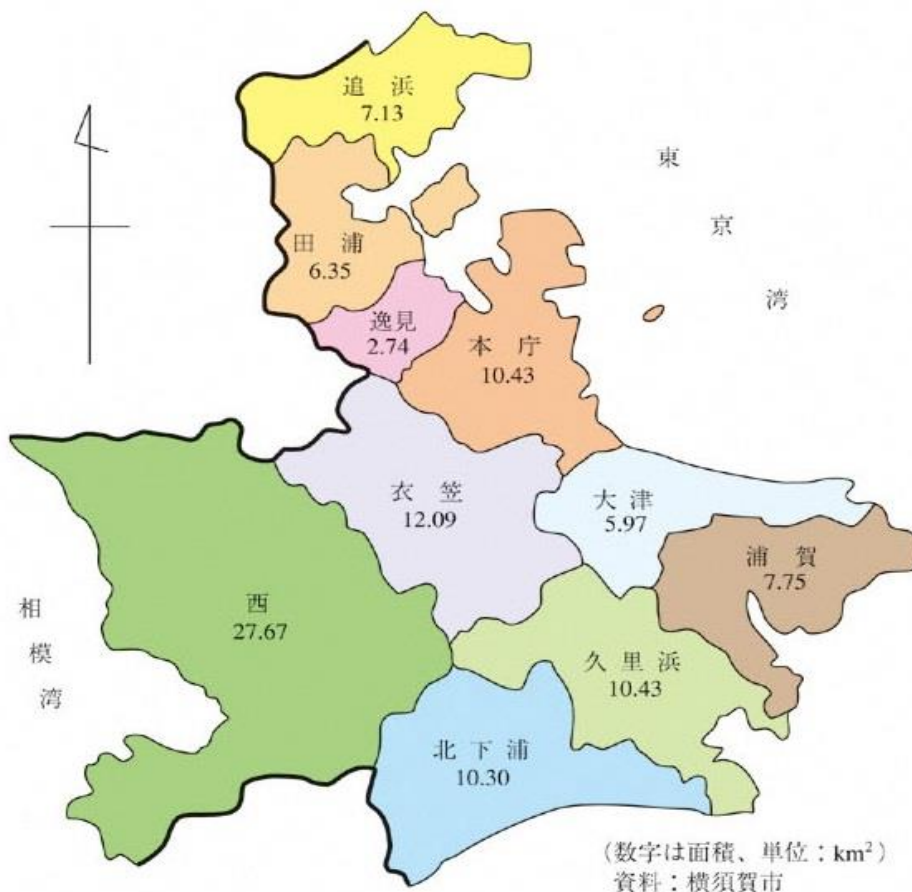
# 1. 横須賀市の概況

## (1) 位置及び面積

(平成30年4月1日現在)

方位	経度	地名	距離	方位	緯度	地名	距離	面積
東端	東経 139° 44' 48"	鴨居 (観音崎)	約 15.5km	南端	北緯 35° 11' 24"	長井 (長浜)	約 15.8km	約 100.82km <sup>2</sup>
西端	東経 139° 34' 34"	秋谷 (長者ヶ崎)		北端	北緯 35° 19' 50"	夏島町 (平潟湾)		

(横須賀市ホームページ より)



(市勢統計要図 H31 年度版 より)

## (2) 気候

年次別 月別	気温(℃)			天気日数(日)					降水量 (mm)	湿度 (%)
	平均	最高	最低	晴	曇	雨	雪	暴風		
平成25年(2013年)	17.4	37.0	-0.5	218	64	82	1	64	1,440.5	71
26年(2014年)	16.4	34.3	-1.0	208	62	92	3	56	1,826.2	72
27年(2015年)	16.9	35.8	-1.9	198	50	117	-	26	1,901.5	74
28年(2016年)	17.1	37.6	-2.7	182	77	107	-	42	1,760.6	74
<b>29年(2017年)</b>	<b>16.5</b>	<b>35.4</b>	<b>-1.3</b>	<b>228</b>	<b>42</b>	<b>90</b>	<b>5</b>	<b>47</b>	<b>1,817.7</b>	<b>72</b>
1月	7.3	19.7	-1.3	26	-	3	2	7	28.5	55
2月	8.1	18.8	-0.8	19	3	3	3	7	28.3	55
3月	9.3	18.0	2.0	20	3	8	-	5	103.6	62
4月	15.0	24.2	5.7	18	3	9	-	4	166.6	72
5月	19.9	29.1	12.1	24	4	3	-	-	74.7	77
6月	22.0	29.1	15.9	14	7	9	-	2	129.9	81
7月	26.8	33.3	22.1	21	4	6	-	1	60.3	84
8月	26.7	35.4	20.7	13	7	11	-	1	178.2	86
9月	23.3	31.5	17.3	12	4	14	-	3	373.3	84
10月	17.9	29.3	10.9	12	4	15	-	9	549.5	82
11月	13.7	23.2	4.7	21	2	7	-	6	102.6	71
12月	8.5	17.4	0.2	28	1	2	-	2	22.2	59

(横須賀市ホームページ より)

横須賀市は、神奈川県南東部の三浦半島の中心部に位置しています。面積は、100.82 km<sup>2</sup>、人口約 39 万 5 千人を擁し、東は東京湾、西は相模湾に面し、南は三浦市、北西から北にかけては葉山町、逗子市、横浜市に接し、東京から 50km 圏内にあります。三浦半島の地質をみると、中央部(二子山地、武山山地)には、新第三紀の堆積岩からなる葉山層群が北西から南東に帯状に分布し、その北側(鷹取山、大楠山地)には、新第二紀の三浦層群が重なっています。半島南部(宮田台地、三崎台地)や東部(小原台)には、三浦層群より新しい洪積世の宮田層、大津層が分布しており、この上を関東ロームがおおっています。

三浦半島の地形は、北帯山地、中帯山地、南帯山地の三つに大別されますが、本市の主要部は中帯山地に属し、標高 100~200m内外の起伏の多い丘陵及び山地からなっています。上町丘陵、大楠山地、武山山地が東西に併走し、これらの山地丘陵の間を縫って河川、低地が配列されています。このように、本市の地形は山や丘陵が多く、広い平地の少ない点の特徴となっています。

また、海岸線の東京湾岸北部はリアス式海岸の溺れ谷をなし、天然の良港となっています。西海岸は海蝕地帯が多く、その他はおおむね砂浜と岬で構成されています。なお、気候は海洋性を有し、暖冬涼夏となります。

## (3) 地形等

巻末の「参考」をご参照ください。(横須賀環境情報図)

#### (4) 交通

交通の状況は、三浦半島と首都圏を結び重要な役割を果たしている主要幹線道路2路線（国道16号、横浜横須賀道路）と、西湘地域とを結ぶ国道134号線があり、また鉄道2軌道（JR横須賀線、京浜急行）があります。



(横須賀市ホームページ～わが街ガイド～ より)

## (5) 人口、人口分布

### 令和元年8月1日現在の横須賀市推計人口

以下の統計は、平成27年国勢調査結果（確定値）を基礎に算出しています。

人口及び世帯数（全市）	
人口総数	394,698 人
男	196,912 人
女	197,786 人
世帯数	167,254 世帯
面積	100.82km <sup>2</sup>
人口密度	3,915 人/km <sup>2</sup>

地区別人口				
地区別	人口総数	男	女	世帯数
総数	394,698	196,912	197,786	167,254
本庁	60,577	29,726	30,851	28,869
追浜	31,867	16,354	15,513	14,354
田浦	17,517	9,338	8,179	7,148
逸見	10,555	5,962	4,593	3,705
衣笠	59,306	28,794	30,512	25,304
大津	40,210	20,277	19,933	16,472
浦賀	44,732	21,726	23,006	18,558
久里浜	51,995	26,052	25,943	21,547
北下浦	34,969	16,985	17,984	14,508
西	42,970	21,698	21,272	16,78

（横須賀市ホームページ より）

### 国籍別外国人住民数

平成30年4月1日現在（住民基本台帳上の人口）

総数	朝鮮・韓国	米国	中国	フィリピン	インドネシア	ペルー	ベトナム	その他
5,668	865	450	730	1,496	275	286	368	1,198

（横須賀市ホームページ より）

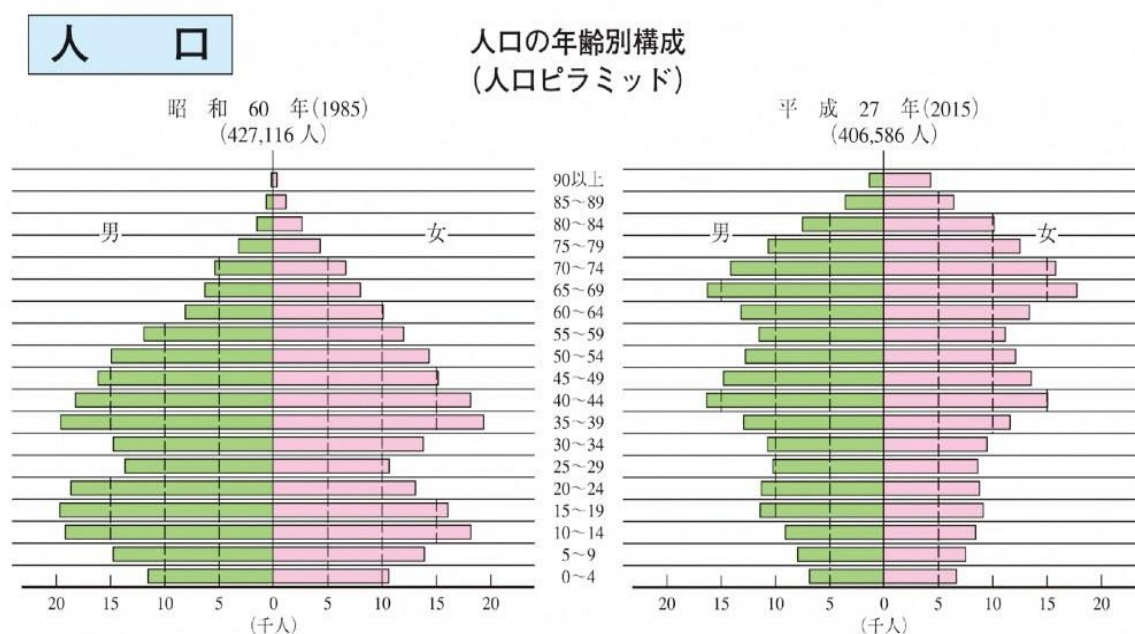
## (6) 横須賀市の高齢者の現状

横須賀市内では、古くからある集落を中心に、現在の市街地が形成されてきました。海に丘陵地が迫る独特の地形から、海から山裾に向かって住宅が立ち並び、また、昭和40年代には標高の低い山でも宅地開発が進み、市内のあちこちに団地が生まれました。

しかし、今日では子どもが独立し、高齢となった夫婦やひとり暮らしの高齢者の住まいが、そうした団地に目立つようになってきています。また、駅やバス停から離れた高台（谷戸地域等）にも高齢者の住まいが多く見られるのも特徴です。

年齢3区分の推移（各年10月1日）

区 分	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
総人口	428,645人 100.0%	426,178人 100.0%	418,325人 100.0%	415,375人 100.0%
年少人口 (0～14歳)	56,940人 13.3%	55,085人 12.9%	51,670人 12.4%	48,457人 11.7%
生産年齢人口 (15～64歳)	296,241人 69.1%	281,732人 66.1%	261,078人 62.4%	245,126人 59.0%
高齢者人口 (65歳以上)	74,760人 17.4%	89,292人 21.0%	105,576人 25.2%	121,792人 29.3%



(市勢統計要図 H31年度版 より)



本市の人口は、平成4年をピークに緩やかな減少傾向にあります。  
人口構造は、年少人口、生産年齢人口の減少が続いている一方、高齢者人口が増加を続けています。

## 高齢者のいる世帯の状況

平成27年10月1日現在の横須賀市内の世帯数は、約16万5千世帯で、高齢者人口の増加に伴い、高齢者のいる世帯は増加してきています。

また、高齢者のいる世帯に占める「単独世帯数」「夫婦のみの世帯数」も増加傾向を示しており、高齢化の急速な進展や単独世帯数の増加を背景に、高齢者の社会的孤立が懸念されています。

(各年10月1日)

区 分	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
総世帯数	156,316世帯	160,945世帯	164,362世帯	165,410世帯
一世帯当たり人員	2.68人	2.57人	2.46人	2.37人
高齢者のいる世帯数	52,959世帯	60,967世帯	70,067世帯	78,328世帯
(高齢者のいる世帯の割合)	(33.9%)	(37.9%)	(42.6%)	(47.4%)
単独世帯	10,998世帯	13,659世帯	17,374世帯	21,392世帯
(総世帯数に対する割合)	(7.0%)	(8.5%)	(10.6%)	(12.9%)
(高齢者のいる世帯数に対する割合)	(20.8%)	(22.4%)	(24.8%)	(27.3%)
夫婦のみの世帯	15,981世帯	19,292世帯	22,491世帯	25,256世帯
(総世帯数に対する割合)	(10.2%)	(12.0%)	(13.7%)	(15.3%)
(高齢者のいる世帯数に対する割合)	(30.2%)	(31.6%)	(32.1%)	(32.2%)
その他の世帯	25,980世帯	28,016世帯	30,202世帯	31,680世帯
(総世帯数に対する割合)	(16.6%)	(17.4%)	(18.4%)	(19.2%)
(高齢者のいる世帯数に対する割合)	(49.1%)	(46.0%)	(43.1%)	(40.4%)

(国政調査データから作成)

## 2. 地域特性

### (1) 谷戸地域



#### 横須賀市の谷戸地域

横須賀市の谷戸地形エリアでは空き家が増加し、コミュニティの希薄化による防犯・災害対応面、高齢化による移動困難者増加などが問題となっています。

横須賀市の汐入から田浦にかけては、海岸（東京湾）に向かって谷戸が連なる構造になっています。谷戸の入り口である海側は国道16号線で結ばれていますが、山側はどこも行き止まりであり、もし谷戸の入り口で崖崩れや火災などの災害があると、谷戸全体が孤立してしまう可能性が高くまっています。このような事態に備えて、孤立することなく防災トンネルを通して避難することができるように、隣の谷戸同士を結ぶ防災トンネルが発案されました。（トンネルの項参照）

#### 横須賀市の谷戸地域指定条件

防災上の観点から横須賀市消防局が谷戸地域を指定しており、以下の中から3以上該当するものがある地域を谷戸地域として指定されています。

1. 三方又は二方が山地に囲まれ通称谷戸といわれる地域で、一般住宅が30棟以上ある地域

2. 普通ポンプ自動車の進入路が一方的であり、かつ道路が行き止まりである地域
3. 地域的な主要道路に位置する消防水利から最も奥の建築物までのホース延長距離が300メートル以上である地域
4. 一般住宅が30棟以上密集し、かつ、最先着隊が部署する消防水利からの高低差が20m以上の地域
5. 消防長が警防対策上、特に必要と認めた地域

**谷戸分布図と谷戸地域一覧** 巻末の「参考」をご参照ください。

### 横須賀市 谷戸地域の状況

- ・市内の谷戸地域 49箇所（添付資料参照）
  - ・谷戸地域全体の空き家率 7.9% （参考：市内の空き家率 7.5%）
  - ・谷戸地域内建物の 45.7% は車の横付け不可
  - ・車を横付けできない建物の空き家率 12.3%
  - ・車を横付けできる建物の空き家率 4.1%
  - ・至る道路に階段がある建物の空き家率 14%
  - ・至る道路に階段が無い建物の空き家率 10%
  - ・空き家の建物（平屋62.5%、2階建37.5%）
  - ・空き家で建て替えが必要なもの 35.9%
- ・一部では、買い物宅配サービスを受けられず、買い物に行くためには階段等を通る必要があり、高齢者の買い物には不便な環境である。
  - ・空き家が増えることにより防犯、安全上の不安が増している。
  - ・空き家率の高い谷戸地域ほど階段が多く、車が通行できる道路が少ない実態があり、かつ少子高齢化率も高くなっている。
  - ・対応策については、横須賀市都市部単独で行えるものも一部あるが、多くは福祉、経済、安全対策などを所管する関係部局との連携が求められている。

### 谷戸地域の抱える問題点について

- ・階段及び狭隘道路が多い地域に空き家が多い。
- ・谷戸地域のうち、空き家率が高い地域において、少子高齢化がより深刻に進んでいる。
- ・谷戸地域の一部では、買い物宅配サービスを受けられず、買い物に行くためには階段等を通る必要があり、高齢者の買い物には不便な環境である。  
この地域に住む高齢者は、自分で買い物をするにも、商業施設までその坂や階段を移動する必要があり、実質的に買い物を行うのが困難な状況である。

谷戸地域の状況（汐入5丁目4丁目地区）





(画像、説明文は、「よこすか白書 2010」、「谷戸地域空き家等実態調査報告書」より)

## (2) 横須賀のトンネル

横須賀は海と山に囲まれた地形でトンネルが多く、道路用だけでも 120 本、鉄道用を合わせると、大小 200 を超えるトンネルがあります。

明治前半、横須賀軍港の整備に伴い、観音崎や猿島の周辺につくられた軍事的なトンネルから、交通の不便さを解消するため谷戸地域でつくられた生活拠点のためのトンネル、防災目的のトンネルなど、さまざまなトンネルが存在します。



上は汐入第一（左、横須賀市汐入 1 丁目／5 丁目）と汐入第二（右、同 4 丁目／5 丁目）トンネル。

防災トンネルとして使用されており、両方とも車の進入を防ぐ柵があります。

### トンネルマップ

トンネル関係詳細は、横須賀集客促進実行委員会（事務局：横須賀市文化スポーツ観光部観光課）発行の「横須賀トンネルマップ」をご覧ください。

検索アドレス：<http://cocoyoko.net/pamphlet/tunnelmap.html>

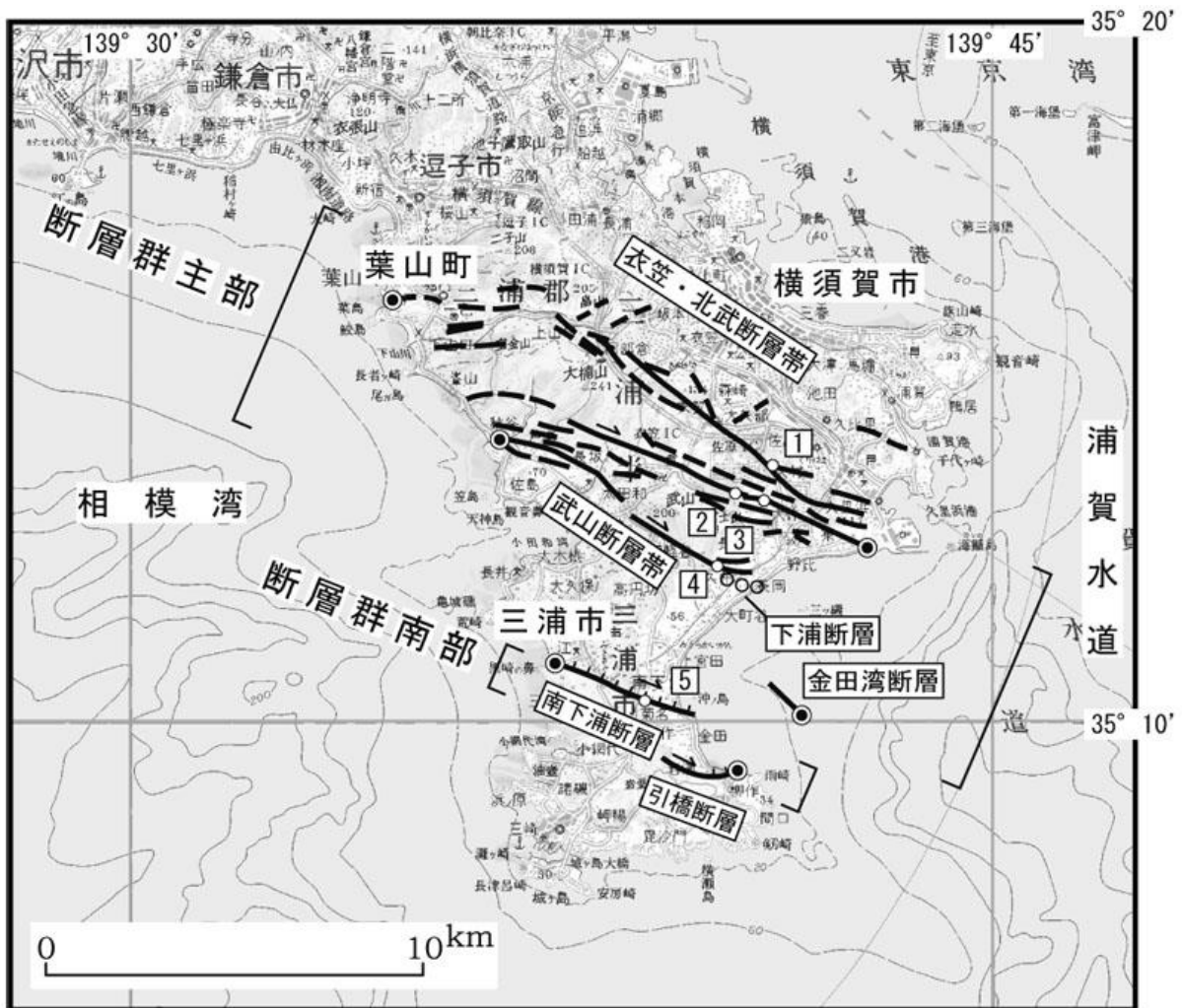
### 3. 三浦半島の活断層

三浦半島断層群は、三浦半島の中・南部及びその周辺海域に発達する活断層群です。

三浦半島断層群は、三浦半島の中・南部及び浦賀水道に分布しており、神奈川県三浦郡葉山町から横須賀市を経て浦賀水道に至る三浦半島断層群主部と、三浦市に位置する三浦半島断層群南部からなります。

三浦半島断層群主部は、ほぼ西北西-東南東方向に並走する北側の衣笠・北武（きぬがさ・きたたけ）断層帯と南側の武山（たけやま）断層帯に細分されます。衣笠・北武断層帯の確認されている長さは約14 kmですが、さらに両側の海域に延びている可能性があり、他のデータをもとに計算により求めると約22 km以上の可能性もあります。武山断層帯の確認されている長さは約11 kmですが、さらに両側の海域に延びている可能性があります。三浦半島断層群南部の確認されている長さは約6 kmですが、さらに両側の海域に延びている可能性があります。

断層群主部及び南部は、いずれも右横ずれが卓越する断層帯から構成されます。



#### <過去の活動>

衣笠・北武断層帯の最新活動時期は、6-7世紀であったと考えられ、信頼度は低いですがその平均的な活動間隔は概ね1千9百年-4千9百年程度であった可能性があります。

武山断層帯の最新活動時期は、概ね2千3百年前以後、1千9百年前以前であったと考えられ、その平均的な活動間隔は1千6百年-1千9百年程度であったと推定されます。

なお、1923年大正関東地震の際に、武山断層帯の陸域部の東端付近で、地震断層が出現したことが知られていますが、地震断層が現れた範囲は1km程度とごく短い区間であることから、これは関東地震に付随した活動であり、武山断層帯固有の活動ではないと推定されます。

三浦半島断層群南部の最新活動時期は約2万6千年前以後、約2万2千年前以前であったと推定されますが、その平均的な活動間隔は不明です。

#### <将来の活動>

断層群主部は、最新活動時と同様に衣笠・北武断層帯と武山断層帯がそれぞれ別々に活動すると推定されるが、全体が一つの区間として同時に活動する可能性もあります。

衣笠・北武断層帯と武山断層帯が別々に活動する場合、衣笠・北武断層帯では、少なくともマグニチュードが6.7程度の地震が発生すると推定され、その時のずれの量は1m程度となる可能性があります。他のデータをもとに計算により求めると、マグニチュード7.0程度もしくはそれ以上、ずれの量が2m程度もしくはそれ以上となる可能性もあります。

武山断層帯では、マグニチュード6.6程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定され、その時のずれの量は1m程度もしくはそれ以上となる可能性があります。

なお、ここで示した両断層帯で発生する地震の規模及びずれの量の数値は、分布が確認されている範囲の断層長や平均的なずれの速度及び平均活動間隔との関係などをもとに推定したものです。断層がさらに両側の海域に延びている可能性を考慮して、地震規模及びずれの量がさらに大きくなる可能性を示しました。

断層群主部全体が同時に活動する場合は、衣笠・北武断層帯が単独で活動する場合と同程度もしくはそれ以上の規模の地震が発生すると推定され、全体のずれの量も衣笠・北武断層帯が単独で活動する場合と同程度もしくはそれ以上となる可能性があります。この場合の長期確率はそれぞれが単独で活動する場合の長期確率を超えることはないと考えられます。

本評価で得られた地震発生長期確率にはそれぞれ幅がありますが、衣笠・北武断層帯、武山断層帯ともに、今後30年の間に地震が発生する可能性が、我が国の主な活断層の中では高いグループに属することになります。

断層群南部は、全体が一つの区間として活動すると推定され、その際にはマグニチュード6.1程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定され、その時のずれの量は0.5m程度もしくはそれ以上となる可能性があります。

なお、断層群主部と同様に、ここで示した南部で発生する地震の規模及びずれの量の数



値は、分布が確認されている範囲の断層長をもとに推定したものです。断層が両側の海域にさらに延びている可能性があることを考慮して、地震規模及びずれの量がさらに大きくなる可能性を示しました。

断層群南部は、平均活動間隔が不明であるため、最新活動後の経過率及び将来このような地震が発生する長期確率を求めることはできません。

(画像、説明文は、地震調査研究推進本部ホームページより)

## 【参考】

- ① 参考1 横須賀市環境情報図 (横須賀市ホームページ掲載統計資料 より)
  - ・災害防止に係る方指定図
  - ・斜面崩壊、地すべり、液状化の危険地分布図
  - ・洪水、土石流の危険分布図
  - ・水や大気の特徴図
  - ・眺望景観の特徴図
  - ・地盤区分図
  - ・公共性・公益性に係る施設の分布図
- ② 参考2 谷戸地域分布図、谷戸一覧 (よこすか白書 2010 より)
- ③ 参考3 横須賀トンネルマップ (横須賀集客促進実行委員会作成)